

第Ⅳ部 緊急対応ポケットメモの活用

(1) いろいろな緊急対応ポケットメモ

博物館で働く全ての人が日頃から危機意識を高く持ち、いざと言うときに迷わず行動が取れるように、携行型の簡易マニュアル（ここでは緊急対応ポケットメモと呼びます）の重要性が指摘されています。緊急対応ポケットメモはさまざまなタイプのものが考えられます。「誰」を対象とし、「どんな情報を」を「どのくらい」載せる必要があるのかを検討し、自館に最もあった緊急対応ポケットメモを作成し、職員やボランティア等に携行してもらいましょう。

① 緊急対応ポケットメモの形式

下記の用に、さまざまな緊急対応ポケットメモの形式がありますので、載せたい情報を鑑みて、自館に適した形式で作成しましょう。



パンフレットタイプ

- 多くの情報を掲載し、コンパクトにまとめられます。
- 地図を見開きの図として見やすく載せることができます。



カードタイプ

- コンパクトで携行しやすく、IDホルダーなどにも入れることができます。
- 情報が限られているので見やすくできます。
- 少ない情報しか載せられません。
- 地図などは載せるのが困難です。



小さな冊子タイプ

- コンパクトで携行しやすく、IDホルダーなどにも入れることができます。
- 文字が小さく読みにくくなることもあります。



ラミネート加工カードタイプ

- ラミネート加工をしているので、汚れや水濡れに強いです。
- ラミネート加工を行う機器が必要になります。

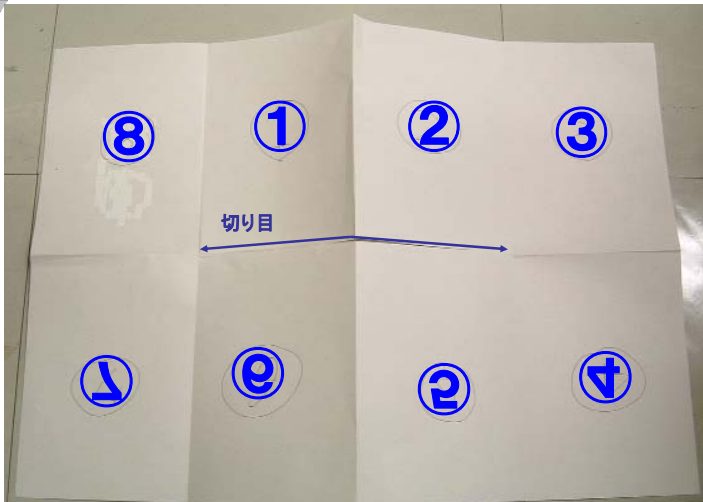


携帯の画面上に表示するタイプ

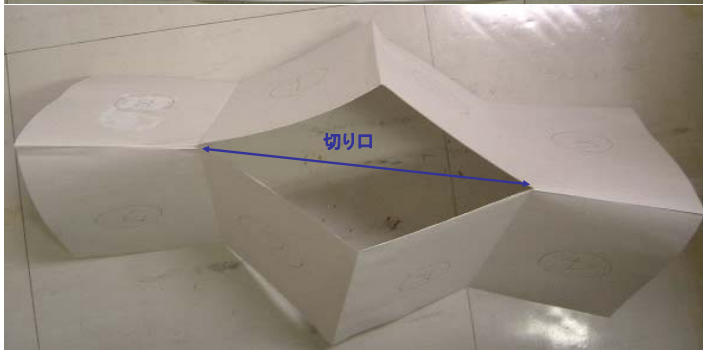
- 携行していることが多いため、館外にいるときも携行している可能性が高くなります。
- 緊急連絡網などは携帯電話からそのまま電話やメールなどで連絡が取れます。
- 電池を消耗し、充電が必要になります。

本のような緊急対応ポケットメモの作り方

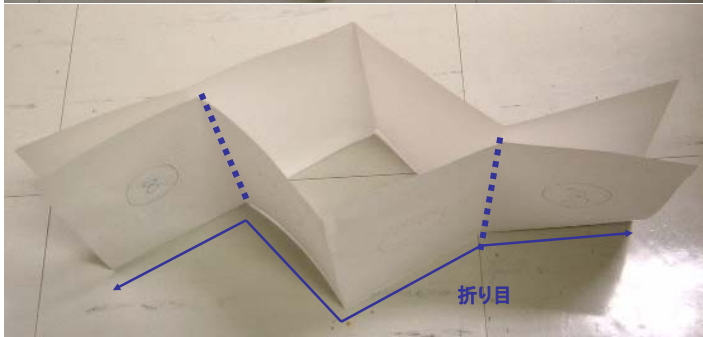
下記のように本のような緊急対応ポケットメモの作り方もあります。



紙を8等分し、内容を書き込みます。
図のように真ん中に切れ目を入れます。



切れ目の両側を開きます。



図のように折ります。



完成です！

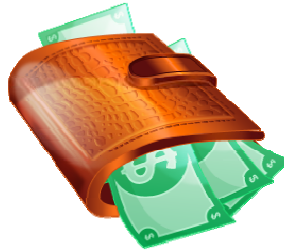
② 緊急対応ポケットメモの携行の仕方

作業の邪魔になったり、資料を傷つけたりすることがないように、緊急対応ポケットメモを常に持ち歩ける方法を考えましょう。緊急対応ポケットメモの携行の仕方としては以下のような例があります。



ポケットに入れる

- ・ 汎用的に使用しやすいです。
- ・ ポケットのない服では携行しにくいです。



お財布に入れる

- ・ 外にいるときもほぼ必ず携行しているものです。
- ・ 他のものも多く入っているので、とっさに出てきにくいことがあります。



ベルトにつける

- ・ ポケットに入れるよりも落としにくいです。
- ・ ベルトをかえるときなど取り外す必要があります。



ファスナー付き腕章タイプ

- ・ 首から提げるカードホルダーに比べ、作業の邪魔になりにくいです。
- ・ 腕章入れが必要となります。



首から提げるカードホルダーに入れるタイプ

- ・ 常に携行するようなIDカードなどと一緒に携行することができます。
- ・ 下を向くときなどカードホルダーが作業の邪魔となることがあります。

(2) 雛形から緊急対応ポケットメモを作る

P43 (3) に示す例を参考に、下記のような内容を含んだ自館の職員用緊急対応ポケットメモ、ボランティア等用緊急対応メモ（カード）を作りましょう。

① 職員用緊急対応ポケットメモ

表紙	「〇〇年度」を必ずいれ、毎年度見直しができるようにします
緊急時の行動	地震時、火災時、風水害時の行動について認識し、避難口、移動方法、消火器の位置なども日頃から確認しておきましょう。 不審者対応では必ず二人で声かけを行うようにします。また、警備担当の方へも連絡し、情報を共有します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 基礎編 P43
緊急時の役割分担	災害発生時における対応体制（班構成、役割）を職員内で決め、氏名をリストに整理し記載します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 基礎編 P4 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック実践編 P21
職員等の緊急連絡網	緊急時の役割分担に基づいた緊急連絡網を記載します。氏名、就業時間および夜間・休日の連絡先（固定電話または携帯電話）を記載します。また、災害発生時における自宅から博物館までのおおよその参集所要時間を記載します。 ※今回掲載されている緊急連絡網のフロー図はひとつの例です。各博物館の実態に合わせて調整してください。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 実践編 P70
緊急避難・閉館と参集	ここでは災害発生時におけるあなたの博物館の閉館・退避の基準および勤務時間外の職員等の参集基準を記入します。基準を予め設定していない場合は、下記のページを参考に閉館および退避の基準を設定します。参集基準は、あなたの博物館の所在地または所属する行政機関の職員参集基準を参考にして作成します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 実践編 P21 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 実践編 P22
関係連絡先一覧	ここでは災害時に連携して活動する外部関係機関の連絡先（Tel、Fax、E-mail等）を記入します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 実践編 P21、71
負傷者の応急処置	ここでは日頃起こりやすいと思われる怪我などの応急処置について記載します。また、応急処置マニュアルを作成している博物館は、その所在を明記します。
緊急時のアナウンス例（日本語）	ここでは災害時の来館者に対し適切な情報を伝えると同時に、パニックを起こさないよう配慮した必要最低限のアナウンス文を記載します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 基礎編 P20
緊急時のアナウンス例（英語）	災害時に来館している外国人に情報を提供する上で必要な英語のアナウンス文を記載します。博物館の実態を鑑み、内容の追記や他国語を用意します。 →博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック 実践編 P86

フロア毎の館内避難地図	<p>ここではあなたの博物館の館内地図を掲載します。注意すべき場所を吹き出し等を用いて、視覚的に分かりやすく示します。</p> <p>消火器、非常口、シャッターラインの位置をピクトグラム（絵記号）等を用いて、視覚的に分かりやすく記載します。</p> <p>AED、非常用電話、ストレッチャー等の資器材を保有する博物館はそれらの位置も記載します。</p>
備蓄品一覧	<p>あなたの博物館の実情に合わせて備蓄品の一覧および保管場所を決め、リストに整理します。</p> <p>必ず鍵の保管担当者名と連絡先を記載します。</p> <p>水害の恐れのある館園では、水や食料は1階には備蓄をせず、2階以上に備蓄します。</p> <p>※1フロアだけの博物館の場合は、なるべく高所となるところに備蓄します。</p>
近隣の防災マップ	<p>ここではあなたの博物館が所在する周辺地域の地図または行政機関が公開している防災マップを掲載し、近隣の危険箇所、避難所や防災機関の所在地、公衆電話や公衆トイレ等が分かるように示します。</p> <p>※地図を使用する場合は著作権の関係もあるため、発行元の許可が必要か検討してから使用します。</p>
安否確認の方法	<p>職員が安心して活動するためにも安否確認方法を記載することは大切です。NTT 災害伝言ダイヤル以外にも各携帯会社からも災害用伝言板サービスがあります。</p> <p>以下のサイトを参照し、各職員の利用実態に合わせて掲載する携帯会社のものを選択してください。</p> <p>参照：災害時の電話利用法（http://www.tca.or.jp/information/disaster.html）</p>
裏表紙	<p>災害発生時、スタッフが被災し、ケガや病気等で意識を失ってしまうことも考えられます。ここではスタッフの所属や連絡先の他、持病やアレルギーの情報を記載できるようにしています。</p>

② ボランティア用緊急対応メモ(カード)

表・裏面共通	<p>ボランティアの方々の安全に配慮した必要最低限の情報を記載します。情報量が多くなる場合はQRコードを利用して記載します（例：安否確認方法）。</p> <p>災害発生時、ボランティアの方には来館者を誘導しながら一緒に避難してもらうことが考えられます。避難後のボランティアの所在、安否確認のための博物館の連絡先を明記し、ボランティアの方に連絡を入れてもらいましょう。</p> <p>不審者対応や急病に対応などについての心構えを簡潔に明記します。また、対応担当の連絡先を必ず記載します。</p> <p>参照：QRコード作成方法（http://qr.popdom.jp/）</p>
--------	---



② ボランティア用緊急対応メモ(カード) 例

下記の例はカードホルダーの中に入れられる名刺サイズの大きさのものです。

表面

●●●●●●●● 博物館	
緊急対応カード	
ボランティア用 (平成●●年度)	
● 来館者を誘導しながら一緒に避難	
● 避難後、博物館へ連絡 TEL: 〇〇〇〇-××××	
● 消火器の場所 1F〇〇〇、2F〇〇〇等 (初期消火不可、危険と感じた場合は即避難)	

裏面

● 不審者対応 二人で声掛け 【警備担当連絡先】 TEL: 〇〇〇〇-××××	
● 急病人対応 二人で対応 【救護担当連絡先】 TEL: 〇〇〇〇-××××	
● ボランティア担当連絡先 TEL: 〇〇〇〇-××××	
● 安否確認 【災害用伝言ダイヤル】 TEL: 171 (QRコードよりアクセス)	